


高校同窓会が土地を借りて多様な森林を整備、環境教育にも活用

59. 浦高百年の森【埼玉県寄居町】

範	囲	埼玉県の北西部、寄居町の市街地から西側の風布地区の民有林約5ha																							
所	在	埼玉県寄居町大字風布																							
生	物	地	理	区	分	コナラ林(東日本)																			
環	境	要		素		二次林()、草地																			
自然条件	地	形	荒川の清流が秩父の山間から関東平野に流れ出す扇状地の要に発達した町。山地、丘陵、台地、低地と多様な地形に恵まれ、地区の中央を釜伏山を源とする「風布川」が流れている。		 <p>撮影時期：2003年10月 「浦高百年の森」の全景</p>																				
	植	生	・	生物等		町全体が「水の郷」として認定され、全国名水百選に認定されている「風布川(ふうっぷがわ)・日本水(やまとみず)」、水源の森百選に認定されている「日本水(やまとみず)の森」などが水の循環と、ホタルやトンボをはじめとする多様な生態系を育んでいる。																			
社会条件	人	口	(市	町	村)	35,776人(農家率9.9%、副業的兼業農家が多い) 寄居町のデータ(H22年)																			
	土	地	利	用	町総面積の20.4%が田畑、39.0%が山林である。 寄居町のデータ(H22年) 寄居町は、自然的土地利用が全体の7割以上を占めており、そのほとんどが山林・水面等と農地で構成されている。																				
	歴	史	・	文	化	古くから賑わいのあった寄居は、戦国時代に北条氏の鉢形城の城下町として発展した。また水運の町としても栄えていた。																			
法 指 定 、 行 政 に よ る 評 価 の 状 況	自	然	環	境	・	景	観	保	全	や	国	土	保	全	に	関	わ	る	地	域	指	定	等	該当なし	
	す	ぐ	れ	た	自	然	、	景	観	、	伝	統	文	化	な	ど	と	し	て	の	選	定	該当なし		

取組主体	タイプ	NPO企業等：NPO・企業・学校等地域の外からの参加者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
		埼玉県立浦和高等学校同窓会	高校の同窓会が組織的に長期間かつ大規模な森づくりに取り組む	
経緯	埼玉県立浦和高等学校同窓会が取り組んでいる「浦高百年の森」事業は、百年先の森林の姿を見込んだ息の長い森づくり活動である。このため、土地所有者と50年間の土地賃貸借契約を締結し、かつ、地上権も50年間設定している(50年後に再契約を行う)。また、事業にかかる資金はすべて同窓生による寄付によって賄っている。地元では、地元協力が会が結成され、町を挙げての支援体制がスタートしている。			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	荒川上流の森を再生し、今後百余年の同窓生が世代を超えて受け継ぎ、育んでいくことで、郷土の環境保全を図るとともに、地域に開放することで寄居町の活性化の一助になればと期待している。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	<p>放置された二次林と耕作放棄地において、地形等に応じて以下の4つの区域に分け、100年かけて森林を再生する。</p> <p>植栽、下刈りその他の作業は原則としてOBを中心に家族、友人等ボランティアが行う。</p> <p>1.カシ林(極相林)、2.里山林(落葉広葉樹林)、3.スギ林(経済林)、4.ヒノキ林(経済林)、5.マツ林(経済林)、6.カヤ林(針広混交林)</p>		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	<p>【対象となる資源】</p> <p>該当なし</p>		
	環境教育や自然体験、エコツアーリズムの場としての利用	自然観察会		
		環境教育・学習活動	在校生といっしょに森林整備活動を行う	
		里地里山体験・環境保全		
		農林業体験活動		
		エコツアー		
その他				
野生動植物やその生息地の保全・管理	該当なし			
地域の良好な景観の保全・修復	該当なし			
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術		
		その他		
該当なし				
連携・協働	活動時には県が道具の貸与や技術指導等の支援を行っている。			



撮影時期：2005年10月
里山林の植樹

撮影時期：

景観としての
利用・評価

不明

取組の特徴

高校の同窓会が組織的に長期間かつ大規模な森づくりに挑むという、画期的な取組を展開している。埼玉県立浦和高等学校同窓会が、土地所有者と土地賃貸借契約を締結し、放置された二次林と耕作放棄地において100年かけて森林(『浦高百年の森』)を再生する。

『浦高百年の森』では、既存の有用な広葉樹林を残しながら、新たにカシ、アカマツ、ヒノキなどの広葉樹・針葉樹を植栽地ごとに分けて植林し、森づくりのモデルケースを目指す。また、地球温暖化の防止、植生の変化等々について、植栽前、植栽後の変化を記録し、研究・調査の対象とする。

さらに『浦高百年の森』の中に、体験の森を設け、若者たちが植林や植生の観察などを通して、水源の森の大切さや、森を育てることの苦勞と喜びを経験できるようにする。

【参照資料】

浦高百年の森公式 HP (<http://homepage3.nifty.com/urako-omiya/index3.htm>)

寄居町HP (<http://www.town.yorii.saitama.jp/>)

水の郷百選メインHP (<http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/mizsei/mizusato/index.htm>)